

特集「保健看護学の将来的課題」

巻 頭 言

京都府立医科大学大学院保健看護研究科

保健看護専攻

京都府立医科大学医学部看護学科看護学講座

岡 山 寧 子

本学の看護教育は、明治22年の附属産婆教習所の開設から110余年と、医学教育と同様に長い歴史を有しており、この間、京都府をはじめ全国に9000人以上の卒業生を送り出し、看護の発展に大きく寄与してきた。また、看護専門学校を改組し、平成5年に医療技術短期大学部設置、同8年専攻科（保健学・助産学専攻）の併設を経て、同14年医学部看護学科として、看護の高等教育化を加速度的に進めてきた。

これは、現代の日本における看護教育全体の動向でもある。全国の看護系大学の設置数は、平成4年には14校であったのに対し、平成20年には168校と急増した。さらに、大学院設置数も同年に修士115課程、博士48課程となり、看護学のさらなる発展に向けて、大学院を主軸においた傾向が拡大しつつある。その流れの中で、平成19年4月、本学においても京都初の看護系大学院である保健看護研究科保健看護専攻（Graduate School of Nursing and Health Care Science, Master of Nursing for Health Care Science）を開設し、来年3月には初めての修了生を送り出す予定である。思い起こせば、大学院開設の準備の際には、保健看護研究科の名称決定について、かなりの議論をした記憶がある。すなわち保健看護のコンセプトをいかに考えるのかという議論である。特集「保健看護学の将来的課題」をはじめるとに当たり、本研究科の考えてきた保健看護について少し紹介したい。

本学の看護系大学院構想は、看護学科の開設時から検討してきた。全国に100以上もある看護系修士課程を設置するに当たり、いかに本学

の特徴を生かした課程を設置するかを模索してきたのである。そして、大学改革推進会議での「本学は府民の健康を守る使命から、健康・福祉・環境関連科学の総合化（ヘルスサイエンス系大学）を目指すこと」の流れに沿って、人々の健康の維持・増進・回復に向けての質の高い支援を継続的に実践できるような理論と方法論を構築することを目指した保健看護研究科の開設に至った。

当初、医科学研究科看護学専攻あるいは看護学研究科看護学専攻とする方向もあったが、最終的には単独設置という形で、保健看護を看護学に公衆衛生学や応用健康科学を融合した実践領域と位置づけ、保健看護研究科保健看護専攻を組織した。このタイプの大学院は、当時の看護系大学院では全国的にも前例がなかったため、文部科学省大学での設置審査に向けてかなり綿密な計画が必要で、その構築にかなり時間を要した。日本の多くの看護系の大学院では、伝統的な看護学の分野とそこから進展させた分野の名称で大学院を設置してきた流れがあった。その一方で、専門職大学院の発展など大学院の多様化が進んでおり、現代的ニーズによって起こった研究領域、分野を研究科名として研究科の目的をより明確に表現する大学院も増えてきていた。本研究科は、後者の考え方に立ち、現代的なヘルスケアニーズに即した研究と実践を推進するために、より高い専門性をもって人々の健康生活支援に携わる人材の育成をめざすコースとした。

では、本研究科の考える保健看護とは何なのか。保健看護の概念図を参考にさせていただきた

い。本研究科は、健康のあらゆるレベルにおいて個人が健康的な日常生活ができるような看護の知識と方法を理論的に構築する看護学を基盤に、人々の健康増進に向けての方法を学際的にアプローチする保健学を包括し、人々の健康とQOL向上を目指したケアリングの追求を目指している。すなわち、保健看護とは、健康の維持・増進および疾病からの回復に向け、人々が健康的な自律した生活活動、保健行動が行えるように、また死にゆく人々とその家族が安らかな死を迎える事が出来るよう看護学に公衆衛生学、応用健康科学（健康推進活動など）の知識を融合して、働きかけるための理論、アプローチの方法を追求する研究領域である。その対象は、個人だけでなく地域の人々の健康を集団的に捉えるものである。個人や家族、地域社会のかかわり、或いは健康と疾病の連続性に着目した予防活動、さらには出生から死まで、エイジングとともに変化する人間の健康生活に関わるケア・支援領域である。

この考え方を基盤として、本研究科では、現

代的なヘルスケアニーズの中で、加齢、疾病、障害に伴うケア或いは活動能力（運動能力他）の保持増進、介護予防、生活習慣病予防と対処、さらには安心安全な地域づくりに対して、より質の高い支援を継続的に行えるような理論と方法論を追求している。そして、これらの方法論の検討を通して、行政、地域、保健医療や福祉施設において、実際にエビデンスに基づいた健康支援を行うことのできる高度専門職者を育成することを教育目標としている。

本研究科は、設置されてまだ日が浅いが、今後実践研究を深めるための専門看護師コース（CNS）の開設や保健看護研究のさらなる発展のための博士課程設置等々、我々の挑戦はまだまだ続くわけで、これからの努力がより一層重要であるとの感がある。その意味においても、保健看護研究科のパワーアップへの努力が必要であることを強調しておきたい。今回は、保健看護研究科のこれからの発展への期待を込めて、保健看護学的視点からの提言を特集した。

保健看護の概念図

